政治学とは伝統的にイズムで語られる。

このような見方にも利点があるが、一つ確かなことは多くの場合現実を曇らせ、一つの狭い、体系的な世界観に人々を縛る効果が少なからずある。

実証的アプローチは1. 分析対象が広がるため、政治に対して多角的なアプローチをとることができ、その分析の中には候補者の笑顔と得票率など政策含意に富むものも多い。

現在の政治学の実証的な手法（膨大な数量データと統計的手法）は、しっかりと現実を反映することを目的としている点、わかりやすい。また、検証可能な分析手法はそこに客観的事実の探究を可能にする。世界観に囚われない、冷静な見方。一つの真実の探究という学問の従来の姿勢に合致している。政治は争いであるという常識を変えることができる→社会が変わる。非常に可能性のある学問領域であると感じた。

分析対象が広がる

笑顔と得票率など

政治とは、伝統的にイデオロギーやイズムで語られますが、このような見方は多くの場合事実認識を曇らせます。本授業で取り扱う新しい、膨大な数量データと統計的手法を用いた政治学は1. 分析対象を広げ、政治を事実に即して多角的に捉え、政策含意に富む結論（笑顔と得票率など）を導き、2. 検証可能な分析手法によって客観的事実の探究を可能にします。それは、度々不毛な対立と化す政治の常識を覆し、新たなコンセンサスをもたらす革命性があると思います。今回の授業でこの新たな政治を紹介され、期待で胸が踊りました。